

日本臨床発達心理士会第21回全国大会 テーマ別研究会「ふれあいプログラム研究会」主催

「社会的コミュニケーション発達を促す親支援と親子遊び」情報交換会

日時：2025年8月24日（日）13：00～14：30

参加者：臨床発達心理士正会員 32名

【企画】尾崎康子、石山玲子、東都ガーボル、三宅篤子、西山剛司、藤川志つ子、和田美奈子

【司会】尾崎康子

＊ゲストスピーカー：西尾大輔（厚生労働省 社会・援護局障害福祉部 障害福祉課地域生活・発達障害者支援室 発達障害対策専門官）

「ふれあいペアレントプログラム」を多くの会員の方に深く認知していただくために、今回の全国大会でふれあいペアレント研究会の紹介を兼ねた情報交換会を企画いたしました。大会2日目の午後という時間帯でしたが多くの会員の方が足を運んでくださいました。

まず、本研究会の代表であります尾崎先生より、ふれあいペアレントプログラムの概要と研究会の紹介説明の後、厚生労働省の発達障害対策専門官の西尾大輔氏にご登壇いただきました。西尾氏からは、主に法制度の視点から「切れ目のない支援」をキーワードに話題提供をお願いいたしました。発達障害者支援施策として、地域における発達障害者の課題の情報共有を図り、地域の実情に応じた体制整備について検討を行う、発達障害者支援地域協議会が都道府県や政令指定都市に整備されていること、発達障害児及び家族等支援事業として国の補助金対象となる5項目があること、そして本プログラムであるふれあいペアレントプログラムも「その他の本人・家族支援事業」に該当するプログラムとのお話をいただきました。参加された方々は、西尾氏に言葉ひとつひとつに傾きながら聞き入っていらっしやいました。実施のエントリーが認められ、国の補助金の対象になれば更に取り組み易くなるのではないのでしょうか。

支援者として目の前の保護者・子どもの事を理解することと等しく、法制度を解し活用することが、子ども達の生涯を通した切れ目のない支援につながることを、改めて確認出来た時間となったと思います。更に情報交換会では、参加者から「法制度を知ったので自治体に働きかけたい」「子育て広場で実践したい」「病院内で実施の難しさを感じている」「早期発見早期療育の視点がメインになっていて保護者の子育てに寄り添う点が薄くなっているように感じる」「皆さんはどのように取り組んでいるのか」等の多くの質疑が予定時間を超えて出されており、まだまだ語りたい雰囲気のまま終了時間となってしまいました。

今回の情報交換会を経て、多くの方がふれあいプログラム研究会に入会してくださいました。

今後、皆様方の期待に応え、会員同士の交流会や勉強会等企画をしていきたいと思っています。

（報告 藤川志つ子）

